

# かほくがた

河北潟湖沼研究所通信 Vol.7 No.3

河北潟で作物を生産されている方々の声を集める。



果樹園内に鶏を放し飼い。餌は、おから、糠、ヒエ、塩を混ぜたもの。おいしそうな餌を食べに、たくさんの鶏が集まっている。

干拓地の金沢市湖南町の一角で、広い敷地を元気に走り回っている鶏を見ることができます。昨年の6月から鶏の放し飼いを始められた山岸松吉さんにこの度お話を伺うことができました。放し飼いは、鶏肉や卵として販売するためではなく、鶏に雑草を食べてもらうことが目的で始めたそうです。河北潟の土壌は粘土質で水はけが悪く、栄養分に富むため、草が生い茂ります。農家の方々は草刈に大変苦労されています。山岸さんは、約4年前から葡萄の栽培を続けており、その果樹園内に生い茂る草を鶏に食べてもらい、有効に働かせようと考えられました。

昨年の葡萄の生産は、春に霜が降りたことから、育ちが悪くて売り物にならず、また大雪で施設が潰れたこともあって、費用がかかりすぎたそうです。一方、葡萄が良好にできた年では

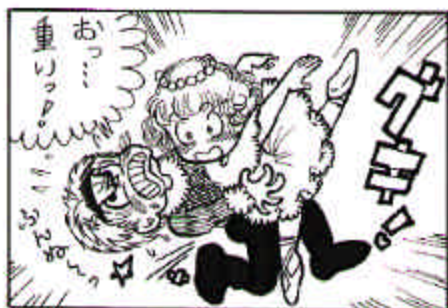
ムクドリの大群が飛来し、すべて食べられてしまいました。まだまだ試行錯誤の段階だと話されていました。

設備費や維持管理費に莫大な資金を要し、さらに野生生物による食害がのしかかる事態。生産性があがらない中で農業を続けることは非常に困難な状況にあります。

作物を生産している農家の方々が抱えている問題や負担を個人のものとしてせず、地域ぐるみで農業を守ることはできないものでしょうか。広大な農地が広がる河北潟の自然環境を保全するためにも、安心して健康な食を得るためにも、良好な農業が持続されていくことが望まれます。農業を続けている方々がかかえている問題をお聞きして、様々な保全対策につなげていけたらと考えています。

(生物委員会 川原奈苗)

カコちゃん ショウくん。 あかひの  
かほくがたチルドレン ひろみ



ディー図鑑「新・山野の鳥」、「新・水辺の鳥」(各524円)などがあります。

防寒具：冬の河北湯は、とても寒い。せっかくの楽しい野鳥観察もふるえては辛いです。十分な防寒具を用意しましょう。

(生物委員会 高橋 久)

## 河北湯野鳥観察入門

コハクチョウやカモ類、猛禽類など、冬の河北湯は野鳥観察に絶好の場所です。

生物は好きだけど鳥はどうも苦手という人がいます。野鳥は、遠くから観察する機会が多いため、親しみ難いのかも知れませんが、でも、野鳥はいったん覚えると、野外での出会いがとっても楽しくなる動物です。河北湯をもっと楽しく過ごすために野鳥観察をはじめてみませんか？今回の学習は、野鳥観察入門です。

- 野鳥観察に必要なもの -

双眼鏡：双眼鏡を選ぶときには、できるだけ倍率が高いものが良いと思われるかも知れませんが、実際に見やすいのは7～8倍のものです。倍率が大きいものは、一般に視野が狭いことと、手元がぶれやすいので、鳥を見つけにくくなります。新たに購入する場合には、信頼できるメーカーの製品を選ぶことをお勧めします。少し高め(3万円以上)ですが、廉価のものとは比べ、レンズの研磨や光軸の調整がしっかりしていて、明るく、シャープな像が得られます。目が疲れず、また鳥の識別も楽です。

図鑑：観察した野鳥の名前がわかるとうれしいものです。手元に鳥の図鑑を用意しましょう。手頃な図鑑としては、日本野鳥の会が発行する、「フィールドガイド日本の野鳥」(定価3,204円)や、同会発行の、ハン



## 河北潟将来構想募集を (ボランティアスタッフ 櫻井英二)

### 【構想募集の趣旨】

現在、河北潟湖沼研究所では、河北潟の将来構想を一般公募して、次の世代へ河北潟を引き継ぐための意見集約を試みる準備を進めています。

ご存知のように、現在の河北潟は1)水質の悪化、2)希少生物の減少、3)農業経営の停滞、4)周辺農地の住宅地化等いくつかの問題を抱えています。これら20世紀に発生した諸問題は、我々の世代が中心となり、解決のための道筋を見つけるべきものと考えます。また、このような河北潟の諸問題の存在さえ知らぬ(知らされぬ)市民が、将来的に間接的なかたちで問題の悪化に係わるることになると考えます。

このため、私たちは河北潟をより豊かで美しい姿で21世紀の子供たちに渡すために、河北潟の将来像をできるだけ多くの市民に考えてもらいたいと思います。

具体的には、自然環境の修復や水質の浄化、野生生物との共生、農業経営の活性化などのアイデアを石川県在住の子供からお年寄り、農業関係者やレジャー利用者、一般市民、行政を問わず公募により集めたいと考えています。そして、この市民レベルで考えた総合的な河北潟の将来像は、行政の理解と協力を得ることで、より早く、より効率的に実現することが期待できると思います。

最近、雑誌で知ったのですが、アメリカンインディアンの言葉に、「この土地は先祖から譲り渡された土地ではなく、将来の子供(子孫)たちから一時預かっているものである」と言うのがあるそうです。価値観の違いや利害の対立を乗り越

え、将来のあるべき河北潟像を一日も早く実現するために、我々の世代が責任ある一歩を踏み出す時期ではないでしょうか。

### 【募集のための組織(案)】

構想募集の組織は、色々な価値観を持つ人々からできるだけ幅広く意見を求めるために、現在の河北潟に関心を持ち、将来の河北潟の姿に興味と責任を感じる一般市民、学生からなる組織を実行委員会の事務局として考えています。すでに河北潟に関連する行政や市民グループにヒアリングを行いました。一部のグループからは協力の申し出を受けており、とても良い感触を得ています。

次に主催者ですが、有識者や共催者の代表からなる(仮称)「かほくがた夢」募集実行委員会を組織して、各方面からの意見集約と著作権等の全体的な管理をお願いする予定です。

また、共催者は市民グループ、農業関係組織、NPOとして、国土交通省、農林水産省、石川県、周辺自治体等の公共には後援をお願いする予定です。

さらに、民間企業や業界団体には、人材や資金援助で協賛をお願いすることを考えています。



昭和初期の湖岸風景(イラスト)

## お知らせ

### < 情報・活動報告 >

#### 日中共同湖沼浄化研究プロジェクトの中間学術検討会が中国・南京で開催

河北瀉湖沼研究所と中国南京湖泊研究所、香港理工大学の共同研究プロジェクトとして2000年3月から始まった、南京市莫愁湖の水質浄化実験施設を使っでの共同研究は、第一段階を終え、その成果を確かめ合うための学術検討会が先頃、中国南京市で開催されました。

2001年11月25日に南京湖泊研究所内で開催されたこの会議には、急用により残念ながら香港理工大学の参加はありませんでしたが、日本側からは定塚謙二金沢大学名誉教授(研究所所長)を団長とする8人、南京湖泊研究所のスタッフを中心に中国側からは約15人の参加で活発に発表と意見交換が繰り広げられました。

会議の中でおこなわれた、研究発表の発表者とタイトルは以下の通りです。

高橋 久「南京莫愁湖の水質の物理的特性の日周変化の特徴と夏冬での違い」

濮 培民「莫愁湖の生態修復 - 理論と技術」

楊 元「物理生態プロセスにおける細菌と水生高等生物が水質へ及ぼす影響」

胡 春華「莫愁湖の底質沈殿物の分析」

成 小英「ホテイアオイの枯死が湖の水質に与える影響」

王 国祥「富栄養化した浅い湖沼においての水生植物の再生について」

濮 培民「全体の総括」

#### 「かほくがた夢」募集実行委員会への参加者募集

本号3pにあるように、河北瀉の未来をみんなでも考えようという活動が始まります。多様な意見を集めるために、この活動を河北瀉湖沼研究所が単独で取り組むのではなく、河北瀉に関係する団体や個人に呼びかけて実行委員会をつくり、多くの人々と協力して進めていこうと考えています。

この取り組みを成功させるために、ご協力い

ただける個人や団体を募集します。実行委員会が結成された後には、活動の主体は実行委員会が担うこととなります。ポスターの作製、チラシの普及、関連して開催されるシンポジウムや自然観察会などのイベントの準備、さらには応募作品の審査など、実行委員会でおこなう活動はさまざまです。個々人の事情や特技に応じて多様な参加形態があると思います。

この取り組みに、興味をもたれた方、実行委員会に参加を希望される方がありましたら、お気軽に河北瀉湖沼研究所金沢事務局までご連絡ください。

#### < 4コマ漫画について >

通信Vol.7より4コマ漫画を掲載しています。河北瀉でよく遊んでいるカコちゃんとショウくんが主人公。このかわいい漫画を描いている、おかのひろみさんは、動物や子供たちが大好きな元気いっぱいのおばちゃんです。4コマ漫画を掲載しているページでは、河北瀉に関連することを楽しく紹介する学習コーナーとなっていますのでご愛読いただければと思います。

#### < 編集後記 >

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、新世紀の門出となる区切りの年でしたが、宗教・文化の対立に根ざす国際テロ犯罪、ヨーロッパ圏外ではじめての狂牛病発生や不良債権処理等、前世紀末から引きずる未解決の問題が顕在化して、私たちの生活を脅かすようになり、恐怖と不安の一年でした。

これらは新しい時代に向けて、私たちが未解決の問題を根本的に解決しようとするとの警告のように思われてなりません。経済や情報、環境などがグローバル化して複雑化する中で、人々が智恵と勇気を出し合うことで、これらを解決するためのきっかけになるような気がします。

(編集者Sより)

「かほくがた」通信 VOL.7 NO.3

2002年1月15日発行

発行所 河北瀉湖沼研究所友の会

〒920-0051 金沢市二口町八58

河北瀉湖沼研究所金沢事務局内

TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435